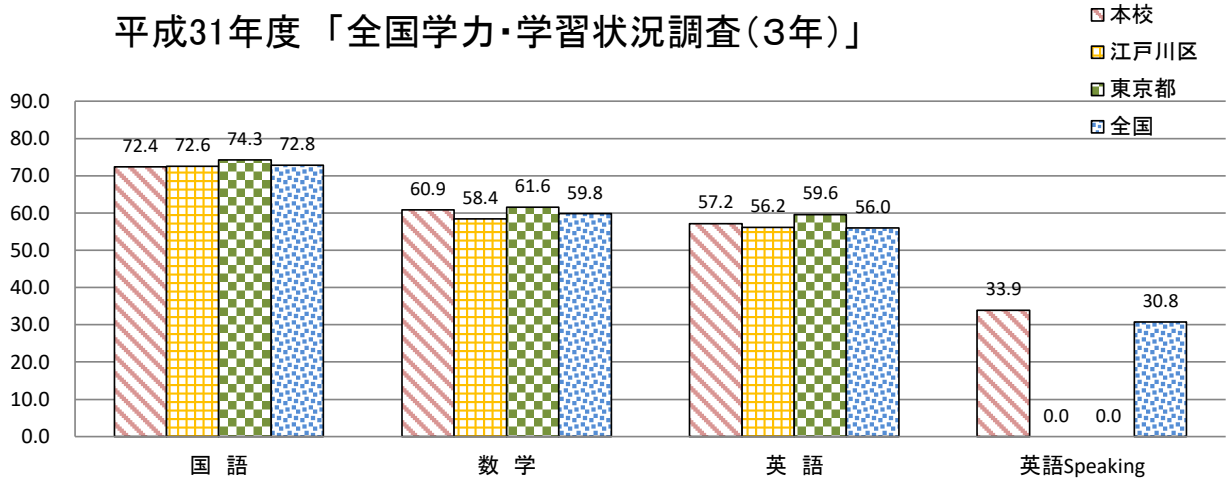


平成31年度「全国学力・学習状況調査(3年)」



【各教科の結果・考察】

国語	区分	領域別				評価の観点別					国語全体
		話す・聞く	書く	読む	言語文化・国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	知識・理解・技能	
国語	本校	72.8	82.6	73.9	59.2	77.5	72.8	82.6	73.9	59.2	72.4
	江戸川区	71.4	81.9	71.5	67.4	非	公	表			72.6
	東京都	72.2	83.0	74.3	69.6	77.1	72.2	83.0	74.3	69.6	74.3
	全国	70.2	82.6	72.2	67.7	76.5	70.2	82.6	72.2	67.7	72.8
【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】 領域別に見てみると「話す・聞く」は都の平均を上回り、「書く」「読む」もほぼ都の平均に近いものであったが、「言語文化(知識・理解・技能)」については国・都の平均をかなり下回り、国語科全体としては全国平均にわずかに届かなかった。特に「手紙の書き方・封筒の書き方」については2年時に学習した時点では概ね理解できていたが、今回正答率が最も低い結果となってしまった。一度習っても授業で繰り返し触れられないものについてはその定着に課題があると思われる。今後は言語知識の理解・定着を図るため、授業の中で小テストなどを実施し、繰り返し学習することで既習事項の理解を深めさせ、定着させていきたい。											

数学	区分	領域別				評価の観点別				数学全体
		数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	数学的見方・考え方	数学的スキル	知識・理解	
数学	本校	63.7	76.1	33.7	62.5	—	51.0	64.1	74.8	60.9
	江戸川区	62.5	72.5	37.3	54.9	非	公	表		58.4
	東京都	65.7	75.0	42.1	57.8	—	52.8	66.9	72.6	61.6
	全国	63.8	72.4	40.8	56.3	—	51.0	63.9	71.3	59.8
【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】 数学科全体としては2年時に比べて向上し、全国平均を上回り、都の平均にも近づいてきた。領域別で見ると「図形」「資料の活用」「純粋な式の計算・方程式」などの具体的・操作的な事象を取り扱うことに関しては正答率は高かったが、「関数」についてはかなり低い結果となってしまった。また、「証明・説明を求められる問題」についても無回答率が高く課題が見られた。今後は比例・反比例・一次関数など既習関数を再度復習し、関数そのものについての理解を深め、関数の式やグラフに関する処理・操作にも習熟させていきたい。証明・説明については基本的なものから小段階を追って慣れさせ、最初から諦めさせることなく取り組ませていきたい。										

英語	区分	領域別				評価の観点別				英語全体
		聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解	
英語	本校	65.7	—	56.0	50.8	—	2.2	41.1	68.1	57.2
	江戸川区	68.8	—	54.6	46.1	非	公	表		56.2
	東京都	71.1	—	59.3	49.5	—	2.3	48.2	68.4	59.6
	全国	67.9	—	55.6	45.8	—	1.8	44.7	64.7	56.0
(スピーキング)	本校	—	33.9	—	—	—	22.8	—	41.3	33.9
	江戸川区	—	結	果	資	料	非	公	表	
	東京都	—	結	果	資	料	非	公	表	未公表
	全国	—	30.8	—	—	—	28.1	—	32.6	30.8
【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】 英語科全体としては全国平均は上回ったものの、都の平均には届かなかった。領域別で見ると「聞くこと」の力が弱いようなので、2学期以降の授業では「リスニング練習」にも力を入れて取り組んでいきたい。また、英語に対する動機づけが低い生徒への個別の支援・対応にも取り組んでいく予定である。今年度から導入されたスピーキングでは、2年生の後半から授業の帯時間に会話練習を取り入れた効果が表れ、全国平均を上回っている。しかし、テーマによっては無回答率が高い問題もあったので、今後は、その日に話すトピックを決めて会話する練習等も取り入れていきたい。										